

2019 年 3 月 2 日

世界女性祈りの日

テーマ「主と共に歩む」

安息日学校

主よ、祈ることを教えてください

礼拝説教

イエスと共に歩む

午後のワークショップ

「私に従ってきなさい」と言われる神に信頼できますか？

著：コーデル・リーブラント／カレン・J・ピアソン

姉妹の皆さまへ

喜ばしいことに、世界女性祈りの日がこうしてまたやってきました。この日のために準備するにあたり、この日の前後2週間に、より多くの時間を祈りに費やせるように計画してください。祈りというのは私たちの日ごとのイエスさまとの関係において必要不可欠なものです。祈りによって私たちは神様の御座に近づくことができます。祈りは私たちを力づけます。また、祈りの中で私たちは誰にも言えないような悩み事を神様に打ち明けることができます。私たちの心を偽りなく表している言葉をもって、聖霊は私たちの祈りを父なる神に届けるのです。

この度の祈りの日に、みなさんが「絶えず祈と願いをし、どんな時でも御霊によって祈り、そのために目をさましてうむことがなく、すべての聖徒のために祈りつづけ（エペソ 6：18）」るよう勧めます。私たちは普段から家族や友人のために祈っていますが、今回の祈りの日には、知らない人たちのために祈りましょう。政府の指導者たち（名指しで）、各々の教会の指導者、ホームレスの人たち、未亡人、苦しんでいる子どもたち、信仰のために迫害されている人たち、孤独な人たち、虐待されている人たち……まだまだいます。自分がベストだと思うように付け足してください。毎日別のグループの人たちを祈りのリストに加えるのもいいかもしれません。

今回の祈りの日の説教では、弟子のつとめについて着目します。祈りは弟子である上で重要な要素です。弟子たちはイエス様にどう祈ればいいのか尋ねました（マタイ 11：1）。世界教会の多くの場所において、私たちは弟子のつとめとは新たな信者を育てていくということであると考えています。ですが、弟子であるということには終わりがありません。生涯続くものです。この説教は、弟子への召し、弟子であることの対価やその結果について着目します。このメッセージやその他の教材たちによって、皆様が祈りを弟子としての成長の中で生活の一部とできるように、また神様がみ許に来るよう呼びかけている顔も名前も知らない誰かのために祈るように、私たちは祈っています。

祝福と喜びが皆様にございますように。

心を込めて……。

世界総会女性部

内容

祈りの課題

著者について

礼拝次第

安息日学校「主よ、祈ることを教えて下さい」

礼拝説教「イエスと共に歩む」

午後のワークショップ「私に従ってきなさい」と言われる神に信頼できますか？

祈りに関する引用文

このプログラムは「世界女性祈りの日」に教会で活用できるように作成されたものです。使っている聖書の訳や、教区ごとの必要に応じて翻訳したり編集したりして下さって結構です。また、文化的な側面も踏まえて改良して下さっても構いません。

教会内での活用に限らず、個人・グループでの読み物としても是非ご活用ください。

祈りの課題

私たち女性は祈るために召されました。そして祈りの女性であったエレン・ホワイトは、私たちに次のような助言を与えています。

「神に祈りをささげるのに、不適當な時とか場所とかはありません。熱心な祈りの精神で心を天に向けるのを妨げるものは何もありません。雑踏の中でも、商売の最中でも、ちょうどネヘミヤがアルタクセルクセス王の前で自分の願いを告げたときのように、神に願いをささげて、導きを請うことができます。祈りの密室はどこにでもあります。私たちは絶えず心の戸を開いて、イエスに天来の客として心のうちに住んでいただくよう、招かなければなりません」

（『キリストへの道』 p.140-141 祈りの特権）

今年の課題は**都市への祈り**です。以下が都市への祈りの例です。

- 指導者たちのため
- 安定と平和のため
- 宗教的寛容のため
- 父親たちや家族たちのため
- 女性たちのため
- 子どもたちのため
- 健康のため
- 教育のため
- 住むところのない人々のため
- 父親のいない人たちのため
- 失われた人たちのため

世界中の女性に影響を与える 6 つの問題も日々の祈りの中に覚えてください。

1. 虐待
2. 貧困
3. 健康
4. 読み書きができないこと
5. 過重な労働
6. 指導者になる機会

「誠実さと信仰があなたの祈りの特徴となるようにしなさい。主は『わたしたちが求めまた思うところのいっさいを、はるかに越えて（エペソ 3:20）』かなえたいとお思いである」（『教会への証』 7 卷 p. 273 〈英文〉）

筆者について

コーデル・リーブランド

(説教：イエスと共に歩む／安息日学校：主よ、祈ることを教えて下さい)

コーデル・リーブランドは、神が世界への伝道をさらに進めるために神の子たちを備えられているということを信じています。それを成し遂げるために、人々が持てる力すべてを出せるように助けることが彼女の望みです。南アフリカのヘルダーバーグ大学の卒業生として、ケープ教区にある 3 つの教会の牧師、2 つの学校と 2 つの大学のチャプレンとして奉仕しています。それだけでなく、教区や教団の女性部の部長としても奉仕しています。またホープチャンネルの“Finding Grace”の司会者でもあります。コーデルの夫アリスティアは彼女の最大のサポーターであり、伝道関連では彼女のよき理解者としていつでも助けの手を差し伸べてくれる存在です。

カレン・J・ピアソン

(ワークショップ：「私に従ってきなさい」と言われる神に信頼できますか?)

カレン・J・ピアソンは、祈りを尊重する神の力を信じていて、効果的な祈り方を他の人に教えることが喜びです。彼女は過去 30 年間女性部のために働いていて、講演者、執筆家、安息日学校聖書研究ガイド（英語版教課）のホワイト夫人のコメント欄の編集者でもあります。3ABN*の「記念の石 (Stones of Remembrance)」においてプロデュース、脚本、プレゼンターを務めました。パシフィックプレス出版協会の広報と宣伝の部長も 9 年間務めました。それに加え、牧師夫人として夫のマイケルと共に 40 年近く伝道活動をしており、現在はアイダホ教区にあるメリディアン SDA 教会の副牧師としても奉仕しています。

*米国の SDA の TV 局 Three Angels Boad casting Network

主よ、祈ることを教えてください

コーデル・リーブラント

〈プログラム〉

開校讃美歌：

開校の祈り：

歓迎のあいさつ：

校長あいさつ：主よ祈ることを教えてください

特別讃美歌：

聖書朗読：ルカ 11:1

あかし（オプション）：答えられた祈りのあかし

聖書研究ガイド

終わりの讃美歌：

閉校のお祈り：

空白の部分は各教会でご自由にアレンジしてください。

校長あいさつ

導入

セブンスデーアドベンチスト世界総会女性部は 1990 年に世界女性の祈りの日を始めました。これは 3 月の第一安息日に設定された特別な日で、この日に世界中の女性が祈りによってひとつになるのです。

主よ、祈ることを教えて下さい（コーデル・リーブラント）

祈りの人

「また、イエスはある所で祈っておられたが、それが終わったとき、弟子のひとりが言った、『主よ、……わたしたちにも祈ることを教えてください。』（ルカ 11:1）」

弟子たちに対してそうであったように、神は祈りによってご自身に語りかけたいという願いを私たちの心に植えつけられます。深く純粋な祈りは私たちにとって自然なものではないので、学び、経験し、感じる必要があります。今が、かつてなかったほどに、神の民が「主よ、祈ることを教えて下さい」と神に嘆願すべきときなのです。

今朝あなたは、こういった私たちを天とつなげて人生を変革する祈りを学びたいと願っていらっしゃいますか。神はご自身の民が祈りの民となるように、今日召しておられると私は信じています。イエスの強さと力の源は祈りによる天の父との密接なつながりでした。

神と幾時間もお過ごしになってから、主は朝ごとに、天の光を人々にもたらすために出て来られた。弟子たちは、主の祈りの時間と、主の言葉や働きの力とを、結びつけて考えるようになった。今、彼らが主の懇願を聞いた時、彼らの心は、畏敬の念に満たされ低くされた。主が祈り終えられた時、彼らは自分たちの必要を強く感じて、「主よ、……わたしたちにも祈ることを教えてください」と叫んだ（ルカ 11 : 1）。（『希望への光』p.1166「祝福の山」主の祈り）

今ほど熱心な祈りが必要であったときはありません。今ほど神の民の気が散らされやすかったときはありません。私たちが祈りの民となるべき時があるとするなら、今がその時です。

あなたは祈りの民になりたいと思っているのでしょうか。あなたは自分の教会が祈ることを知っている教会として知られるようになりたいと望んでおられるのでしょうか。私はそれを望んでいます。隣人が、地域社会が、危機的な状況にあって神を必死に求めているときに、私たちが祈る民であることを知っているがために、彼らが本能的に私たちに助けを求めて来ることを私は願っています。

祈りの民

私たちをその境地にまで到達できるように助けてくれる 3 つのことを見てみましょう。

第一に、弟子たちと同じように、私たちも自分の必要を知らなければなりません。「主よ、祈ることを教えて下さい」

弟子たちは私たちよりも有利だったように思えます。彼らは実際にイエスが祈るのを聞いたのですから。

どう祈るかを本当に知っている誰かが祈っているのを聞いたことがありますか。

神と生きたつながりを持っている人の祈りを聞くと、神のご臨在の中へと招き入れられます。それこそが弟子たちが、イエスの祈りを聞いたときに経験したことです。（そう理解することが）同じような経験を持ちたいという渴望、熱望をもたらします。

ヨハネ 17 章のイエスの祈りを聞くと、イエスの熱意、情熱、私たちへの愛が聞こえてきます。そして祈りについてまだどれだけ学び足りないかについて気づかされます。それは私の必要を示してくれ、私の祈りは弟子たちの祈りのエコーとなるのです「主よ、私に祈ることを教えて下さい」

とりなし、嘆願、告白など多くのいろいろな種類の祈りがあります。

祈りを学ばさいには次のステップに従います。

1. 祈りの民となるためには、私たちは祈りの必要を知らなければなりません。

「救い主は、私たちと同じように欠乏と弱さを覚えて、義務と試練に耐えられる新しい力を天父から受けるために、熱心に祈り求める者となりました。彼は、すべてのことにおいて私たちの模範です」（『キリストへの道』改訂第 3 版 p. 132 祈りの特権）

2. 頻繁に根気強く祈らなければなりません。なぜなのでしょう。

「常に祈り、忠実に見張っていなければ、私たちは次第に不注意になって、正しい道からそれる危険があります。敵は恵みのみ座への道を遮って、私たちが熱心な祈りと信仰によって誘惑に抵抗する恵みと力を受けることができないように、絶えず働いています」（同 p. 132）

私たちが根気強く祈ろうとすると何が起きるのでしょうか。正直になりましょう。根気強くあるためには、意図的にそうしなければなりません。祈りにおいて根気強くあろうと決めるとき、何かが起きることを期待できます。なぜなら祈りは変化を引き起こすからです。祈りは私たちを変化させます。

3. 一貫して祈るとき、私たちの生活は次のように変えられます。

祈りの動機が変化し始めます。

義務感から祈る代わりに、受けとめきれないほどにあふれる恵みを神がお持ちであることに気づきます。「主の恵みふかきことを味わい知れ」と詩篇記者は叫びました。こうなると私たちの祈りの動機は、単にやるべきことリストの中の「祈り」にチェックマークを入れるだけのことから、神の恵み深きことを味わい知りたいというものになります。

根気強く祈るとき、神のみ旨がなされますようにという願いが強められます。私たちは自分たちが思う以上に、神のみ旨がなされるようにと願うようになります。

根気強く祈ろうとすると、神への信仰は成長します。祈りが私たちを変化させるのです。

「私たちはキリストをつかみ、そして私たちを変える恵みの力が私たちの内に現わされていることを知るまでキリストをつかみ続けている必要があります」 (“*This Day with God,*” p. 285 〈英文〉)

4. 根気強い祈りは、私たちを変えるのみならず、私たちが愛している人々をも変える力を持っています。

5. そして最後に、もし私たちが祈りの民となりたければ、私たちは祈るでしょう。なぜなら祈ることで私たちは主を知り、主の愛を受けることができるようになるからです。

それでは、祈りはどのようにして、主を知ることを助けてくれるのでしょうか。

「祈りとは、友だちに語るように、心を神に打ち明けることであります」 (『キリストへの道』改訂第3版 p. 131 祈りの特権)

私たちは友だちに語りかけますし、実際友だちとの会話が大好きです。そうやってお互いを知るようになるのです。お互いに語り、聞くことで友情が育っていくのです。祈りは友だちに語るように、心を神に打ち明けることです。神に語りかけ、神の言葉を聞いて共に過ごすことにより、神を知るようになるのです。

では、祈りは私たちが主の愛を受けるのをどのように助けてくれるのでしょうか。

私たちは自分自身を主の目を通して見るようになります。「イエスが私をご覧になったらどのように見えるだろうか」と。

「私どもの天の父は、あふれるばかりの祝福を私どもに与えたいと待っておいでになります。限りなき愛の泉のほとりで思う存分飲むことは、私どもの特権であります。それなのに私どもが少ししか祈らないのは、なんと不思議なことでありましょう」 (同 p. 133)

祈りの民となる決意をもって私に加わってくださるよう、あなたをお招きしたいと思います。

礼拝次第の提案

開会讃美歌：

はじめのお祈り：

献金：

聖書朗読：ルカ 9：57-62

特別讃美歌：

説教：イエスと共に歩む

閉会讃美歌：希望の讃美歌 329 番

終わりのお祈り

*空白の部分は各教会でご自由にアレンジしてください。

イエスと共に歩む

ユーデル・リーブランド

これは大学に行きたいと思っていた若い女性の話です。入学願書に「あなたはリーダーですか？」という質問があるのを見て、彼女の心は沈み込んでしまいました。正直者でまじめな彼女は、「いいえ」と記入し、不合格かもしれないと思いながら提出しました。驚いたことに、彼女はこんな手紙を大学から受け取りました。そこには、「出願者様：入学願書を分析したところ、私たちの大学にはこの度 1,452 人の新しいリーダーが入学します。彼らが従えて行く人が少なくとも 1 人は必要であると判断したため、あなたの入学を許可します」と書いてあったのです。

70 億以上の人がいるこの世界において、神の国はキリストの弟子となる人たちを必要としています。ここで問題なのが、キリストの弟子であると告白している人たちの多くが、リーダーになることばかりを考えて、そもそもクリスチャンとして謙遜な弟子とならなければならないという第一の責任を忘れてしまっているということです。リーダーになる前に、弟子はその主人の傍で従者として学ばなければなりません。

キリストに従う人はみな毎日神のご臨在のもとに導かれます。彼らはそこで祈りと聖書研究によって、弟子であることの意味とイエスとイエスの大目的とともに進むために要求されるものが何なのかを発見するのです。弟子は耳を傾け学びます。彼が多く的事物を見る見方は間違っているかもしれません。ですから、本当の偉大さとは何を意味するのかを新たに理解するときに、弟子はそれを受け入れなければなりません。

祈りによって弟子たちは主からの指示を受け、対話をもつことができます。エレン・ホワイトはこのように警告しています。「祈りが心にとっての特別な運動でなければ、魂が成長することは不可能である」（『教会への証』2 巻 p.189 〈英文〉）。またこのようにも書いています。「主に仕える者たちは、多くの人々が持とうと思っているよりも、もっと高い、もっと深い、もっと広い経験を必要としている。すでに神の偉大な家族の一員となっている多くの者が、神の栄光を見ること、栄光から栄光へと変えられることの意味をほとんど知らない」（“*Gospel Workers*” p.274 〈英文〉）

「墮落した人類として私たちが心底求めているものは、神様とまた親しい関係に戻ることで」と、女性部の同僚が書いています。「神様に私たちのことを知ってもらい、無条件に愛してもらうことを渴望しています。失われたくないのではなく、愛されたいと切望しているので。神様の息子娘として親密に生きていきたいと切望したとき、私たちが言行ともにイエス様のようになりたいと望んだとき、私たちは弟子となったのです。イエス様と語り合うとき、祈

りによる霊的な訓練によって私たちの心はイエス様の心と密接に結びつけられるので、弟子であることの代償がどれだけ大きくとも、私たちは永遠に向けて彼に付き従っていくのです」——レベッカ・ターナー

弟子が主を信頼するよう成長するにつれて、弟子は疑問を抱くことなく、ただただ主と同じように自分の与えられた仕事を完璧にこなすようになります。成功し、勝利を得るためには、クリスチャンはまずは「わたしは道であり、真理であり、命である。だれでもわたしによらないでは、父のみもとに行くことはできない」（ヨハネ 14：6）とおっしゃったイエス様の後についていかなければなりません。

今朝、聖書朗読の箇所であるルカ 9：57-62 を見ていくにあたって、キリストの 3 人の弟子と、彼らとイエス様との対話から学んでいきましょう。そこからキリストの弟子になるということの本当の意味が見えてきます。

57 節：道を進んで行くと、ある人がイエスに言った、「あなたがおいでになる所ならどこへでも従ってまいります」。

58 節：イエスはその人に言われた、「きつねには穴があり、空の鳥には巣がある。しかし、人の子にはまくらす所がない」。

59 節：またほかの人に、「わたしに従ってきなさい」と言われた。するとその人が言った、「まず、父を葬りに行かせてください」。

60 節：彼に言われた、「その死人を葬ることは、死人に任せておくがよい。あなたは、出て行って神の国を告げひろめなさい」。

61 節：またほかの人が言った、「主よ、従ってまいります、まず家の者に別れを言いに行かせてください」。

62 節：イエスは言われた、「手をすきにかけてから、うしろを見る者は、神の国にふさわしくないものである」。

57 節. これが最初の例ですが、いきなり向こう見ずな衝動にかられた人が登場します。彼は召されるのを待たずしてイエス様に従おうと申し出ました。そういうわけでイエス様は、その人は自分が何をしようとしているのかわかっていないと警告なさいました。その人は、イエス様と共に歩む人生がどういうものなのかわかっていなかったようです。

59 節. 2 つめの例では、イエス様は相反する義務のせいで悩んでいる人に出会います。出会うとすぐイエス様はこの人を、最も説得力のある言葉で招き入れました。「わたしに従ってきなさい」。しかし、反応から推測すると、この人は愛する家族を失った後のようです。そうだとしたら、彼はひどく嘆き悲しんでいて、キリストに従う前に父親を葬りたかったのでしょうか。この人は、キリストに従いたいという強い衝動にかられてはいたのですが、最優先すべき責任で手一杯だったのです。彼はまさに人生の岐路に立たされていました。イエス様に従うという聖なる務めを果たすべきでしょうか。彼はどんなに重要なことであっても、この地上のものが彼とキリストとの間に入ることがあってはならないと知っていました。

61 節. この 3 つめの例では、思い迷っている人が現れます。彼は、イエス様に従う気があって、「主よ、従ってまいります」と言っています。しかしそのあとで、「まず家の者に別れを言いに行かせてください」とも言っています。彼はキリストに従うのが正しいことだと知ってはいましたが、まずは個人的な用事を済ませたいと思っていました。

これらは、イエス様に従うのを先延ばしにするもっともらしい理由に思えます。みなさんも似たような言い訳をしたことがあるのではないのでしょうか。あるいは軽率にイエス様にお仕えすると約束して、あとからそれを破ったりしてはいませんか。

今朝、私たちは弟子であることの 3 つの側面について考えていきます。1 つめは、弟子になるようにとの召し、2 つめは弟子であることの代償、そして最後が弟子であることの結果です。イエス様は、私たちが①召しに応える前に②代償を数え、③結果について理解するようにと警告されています。「だれでもわたしについてきたいと思うなら、自分を捨て、日々自分の十字架を負うて、わたしに従ってきなさい」(ルカ 9:23)。

① 弟子になるようにとの召し

1 つめの「わたしに従ってきなさい」という命令は、数百年にわたって私たちの間で鳴り響いています。この命令に応じるかどうかを決める以上に人生を変えるような決断はないでしょう。しかしこの世界はたくさんの声であふれています。私たちの注目を集めようと大騒ぎして、私たちの時間、エネルギー、そして献身を要求するのです。その声というのは、ある人にとっては組織に参加すること、価値ある大義を支援すること、もしくは流行を追いかけることかもしれません。

各時代において、何人ものカリスマ性のある人たちが弟子を集めてきました。キリストと自称する者たちがカルト信者を集め、ポップスターはたくさんのファンを引き付けます。しかし、この耳障りな音、声の渦中にこそ、聞くべき声があるのです。それが、弟子になるようにとの召しです。たくさんの人が無視してきましたが、それでもこの招きは 2000 年以上にわたって続いています。イエス様は、「わたしに従ってきなさい」という言葉とともに、男性も女性もみんなを本当の弟子になるように招いておられるのです。

シモン・ペテロと彼の兄弟アンデレの経験(マタイ 4:18-20)が、最初の弟子になるようにとの召しを説明しています。ガラリヤの岸辺で漁をしている彼らを見つけて、イエス様は「わたしについてきなさい。あなたがたを、人間をとる漁師にしてあげよう」と言いました。マタイによると、彼らはすぐに漁の網を置いて、イエス様に従いました。ヤコブとその兄弟ヨハネも同じようにすぐに呼びかけに応じました。彼らはすぐに舟と父をおいて、ためらうことなくイエス様に従いました(同 21,22 節)。彼らは仕事、持ち物、そして家族をもおいてきたのです。弟子になるようにと召されたら、優柔不断やためらいは禁物で、迅速な行動が必要とされます。

彼らはすぐに全てをおいて従いました。なぜなら、ラビに従うようにと呼びかけられるのは大変名誉なことだったからです。この漁師たちは、他のラビの徒弟になれるほど知的では（もしかすると霊的でも）なかったようです。彼らはイエス様が、あなたたちは私の生徒になるに値するし、私のようなラビになることも、私がいなくなったあとに私の名によって伝道が続けていくにも値する、と言っていることを理解しました。救い主は、新しい契約の関係を結ぶよう、人々に呼びかけています。弟子になるようにとの召しは、神様とのものであって、人とのものではありません。キリストは人々に、自己を否定し、己の十字架を担いで彼に従うように呼びかけています。弟子になるようにとの招きは、つまり、従順になるようにとの呼びかけです。イエス様が私たちに呼びかけ、私たちがそれに応えるのです。

ペテロとアンデレと同様、イエス様は私たちにも人間をとる漁師になるよう召しておられます。イエス様は、弟子として従うようにたくさんの人に呼びかけておられます。すべての人が快く全てを委ねているわけでもないし、弟子として歩んでいながら新しい弟子を作ろうとしているわけでもありません。ある人はキリストが驚くような奇跡をおこなうから彼に従い、また他の人は来る王国で高い地位を手に入れたいから彼に従い、そしてまた別の人たちは単なる好奇心のみから従っています。

② 弟子であることの代償

57 節. 1 つめの例：聖書朗読でルカ 9：57 を読む中で、イエス様と弟子たちが旅をしていると、イエス様に従いたいと申し出てくる人に出会ったことが見て取れます。「あなたがおいでになる所ならどこへでも従ってまいります」と、向こう見ずな衝動に駆られたこの人は約束します。

イエス様はこの人に従うように命じられたわけではありませんが、それにしてもなぜ、自ら進んで弟子として仕えようとするこの人を見てイエス様は喜ばれなかったのか、私たちには不思議に思えます。58 節でのイエス様の返答について、私たちは注意深く考えてみないといけません。「きつねには穴があり、空の鳥には巣がある。しかし、人の子にはまくらする所がない」。キリストには、その人にお与えになれるこの世のものが何ひとつありませんでした。イエス様は、この男が軽率で、キリストに従うことの犠牲についてしっかり考えていないことを理解していました。主は、弟子になりたいと申し出た男の心を読んで、弟子になるのに必要な犠牲を払う準備が十分にできていないことを知っておられました。

弟子であることの代償は、欠乏と自己犠牲の人生を生きるために、すべての物と人間関係をあきらめることです。

統計によると、2000 年以上前にキリストが亡くなり、そして死からよみがえられてから、およそ 4300 万人ものクリスチャンがキリストに従うことを選んだ結果殉教しています。今日さえも、世界のどこかで信徒が殉教したり投獄されたりしたというニュースを耳にします。

1945 年 4 月 9 日、7 人の男がナチスドイツの絞首台に向かって歩いていました。彼らはヒトラーのナチスの政治体制に抵抗し、福音のために立ち上がったために絞首刑になりました。彼らの中には、ディートリヒ・ボンヘッフアーという名の若い牧師がいました。彼は『キリストに従う（原題は『弟子であることの代償』）』という、非常にいろいろ考えさせられると同時に心地の良くない本の著者でもあります。この本の中で彼は、キリストに従うことにどれだけの犠牲が伴うかについて書き記しているとともに、安価な恵みに安住する危険についても警鐘を鳴らしています。

安価な恵みは教会の敵であると彼は記しています。それは私たちに何も要求しないからです。安価な恵みは、服従せず弟子にもならずして罪からの許しを求めるのです。

キリスト教は簡単で、人生の成功に導いてくれるものだと考えている人たちは、今朝の聖書朗読の箇所少し前の部分でキリストが言っている言葉について熟考してみるべきでしょう。ルカ 9：23-25 でイエス様は、だれでも彼についていきたいと思うなら、自分を捨て、日々自分の十字架を負わなければならないと言っています。弟子であることの代償は、日々自分の十字架を背負って従うことです。イエス様はこう付け足されました。「人が全世界をもうけても、自分自身を失いまたは損したら、なんの得になろうか」。

ほぼ間違いなく、弟子になるということの側面のうちで最も受け入れがたいものが、地上での報酬が何もないということです。これは私たちの本質に反するものです。私たち誰もが自分を売り込み、自ら自分の人生を設計し、快適に生きるための物を得るためにがんばって働こうという強い思いを持っているものです。

弟子であることの代償は、今までの自分との決別です。つまり、キリストを第一にするために、私たちの優先順位は変わります、いえ、変わらなければいけないのです。

かつてマルチン・ルターはこう言いました。「何も与えず、何の負担もなく、何の苦しみもない宗教には何の価値もない」。

弟子であることの代償について話す中で、私たちが弟子になるための機会をお与えになるためにキリストご自身がどのような代償を払われたのかについても見なければいけません。

- 私たちが弟子になるための機会を与えるために、イエス様は天国での天使からの賛美と崇敬を、愚弄、嘲り、軽蔑の人生と取り換えられました。
- 私たちが弟子になるための機会を与えるために、イエス様は天国での栄光と光輝を、苦難と屈辱の人生と取り換えられました。
- 私たちが弟子になるための機会を与えるために、イエス様は天国の父なる神との一致を、父からの決別と取り換えられました。
- 私たちが弟子になるための機会を与えるために、イエス様はご自身の命を、十字架上で苦痛に満ちた死と取り換えられました。

イエス様は失われた者たちを愛しておられ、快く私たちの罪を贖うための代償を払ってくださいました。イエス様は私たちにそれだけの価値を見出されたのです。

③ 弟子であることの結果

2 つめの例：59 節では、「わたしに従ってきなさい」との命令を受けた弟子志望の人がでてきます。彼は喜んでキリストに従いたかったのですが、彼にはそれとは相入れない義務があり、まずは父を葬らせてほしいと言いました。彼の父親は亡くなった日に埋葬されるはずですので、埋葬しに戻るとするのは、息子としてまた相続者としてやらなければいけないことが色々あり、その結果イエス様についていくのが遅れる、ということも意味しています。

この近東の慣用句「まず、父を葬りに行かせてください」は、この男には父親が死ぬまで息子として父親の農場や仕事を助ける義務があることを確かに言及しています。そしてその義務を全うするには時間がかかるかもしれません。

60 節で、イエス様はこの男に信じられない返事をしました。「その死人を葬ることは、死人に任せておくがよい。あなたは出て行って神の国を告げひろめなさい」と答えたのです。イエス様が意味したのは、死人を葬るのは霊的に死んでいる人たちに任せておけばよい、ということだったのかもしれません。他の場面でイエス様は、「だれでも、父、母、妻、子、兄弟、姉妹、さらに自分の命までも捨てて、わたしのもとに来るの でなければ、わたしの弟子となることはできない」（ルカ 14：26）と言われました。かなり厳しい言葉に思えますが、イエス様が強調しておられるのは、私たちの人生において、イエス様よりも優先する人がいてはいけないということです。弟子であることの結果というのは、イエス様からの命令を最優先事項として受け入れるということです。

3 つめの例：61 節には、イエス様に従いたいというまた別の人物が現れますが、その人は思い迷っていました。彼は帰宅して愛する人たちにお別れを言う義務がありました。

文字通りの意味で考えると、彼はただ家族にキリストに従うことにしたと告げてお別れをしたいだけに思えます。しかし、さらに学んでいくと、彼は身の回りを整理する必要があったということがわかります。言い換えると、彼にはまずやっておきたいことがあったのです。もし彼がお別れを言うために家に帰ったとすると、きっと他の人たちが彼の決断に悪い方向に影響を与えるでしょう。そしてその人たちの意見に耳をかす機会をもってしまうことになるのです。それか、忙しくなりすぎてイエス様の元に戻る事が魅力的に思えなくなってしまうかもしれません。弟子であることの結果は、家族を愛しつつも、私たちの神様への愛と神様の命令に従いたいという思いの妨げにならないということです。

多くの人がキリストに従いたいと望んでいますが、あまりにたくさんの障害がありすぎてそれを乗り越えられずにいます。今すぐイエス様に従うことができない理由がどれだけでもっともらしいとしても、それは誰か、もしくは何かがキリストよりも重要だと考えているからなのです。その結果私たちは、イエス様に従いますと言いながらも、それに「だけど」と付け加えて

しまうのです。あるいは、従いますと申し出るのに、他のことを「まず先に」やらないといけないと言うのです。

召された人たちの多くがイエス様に従うと約束しますが、その約束に本当に忠実な人はごくわずかです。約束に忠実であろうとしても、人生の激流に流されてしまうのです。絶対に守るつもりで約束しておきながら、結局はその約束を破ってしまったという経験を持たない人がいるでしょうか。

他の宗教から改宗してクリスチャンになろうとした人たちの多くが、キリストに従わないようにさせるために家族が与える精神的な圧力のせいで信仰を失っています。この件に関して聖書は明快です。私たちは人ではなく神様に従わないといけません。

イエス様のおっしゃることは聞き手に多くを要求するため、耳をふさぎたくなるようなものが多くあります。イエス様は常に私たち存在のすべて、私たちの持てるすべてを必要とされます。中途半端も「もし」も「だけど」も許されません。しばしば、私たちが喜んで手放す以上のものを要求されます。ルカ 9 章をいつでも開けるようにしたまま、マタイ 19 章の 16 から 22 節を開いて若い金持ちの話を読みましょう。

16 節：すると、ひとりの人がイエスに近寄ってきて言った、「先生、永遠の生命を得るためには、どんなよいことをしたらいいでしょうか」。

17 節：イエスは言われた、「なぜよい事についてわたしに尋ねるのか。よいかたはただひとりだけである。もし命に入りたいと思うなら、いましめを守りなさい」。

18 節：彼は言った、「どのいましめですか」。イエスは言われた、「『殺すな、姦淫するな、盗むな、偽証を立てるな。』

19 節：父と母を敬え』。また『自分を愛するように、あなたの隣り人を愛せよ』」。

20 節：この青年はイエスに言った、「それはみな守ってきました。ほかに何が足りないのでしょうか」。

21 節：イエスは彼に言われた、「もしあなたが完全になりたいと思うなら、帰ってあなたの持ち物売り払い、貧しい人々に施しなさい。そうすれば、天に宝を持つようになる。そして、わたしに従ってきなさい」。

使徒マタイは、恵みの召しに対するこの青年の悲劇的な応答を続けて書いています。

22 節：この言葉を聞いて、青年は悲しみながら立ち去った。たくさんの資産を持っていたからである。

ここでわかるのが、律法に忠実でありながらイエス様に従わないということが起こり得るということです。弟子であることの結果は、律法に忠実であること、なおかつ常にキリストと共にそれらを行うことです。

ルカ 9 章に戻りましょう。62 節で、イエス様は深い霊的な真実を伝えるために、当時よく使われていたことわざを用いています。「手をすきにかけてから、うしろを見る者は、神の国にふさわしくないものである」。手をすきにかけるといえるのはどういう意味でしょう。このことわざ的表現は、仕事を引き受ける、任務や責任を引き受ける、という意味があります。また、もし私たちがこの冒険で成功したいのなら、振り返らずに前だけを見続ける、ということも示唆しています。

引き受けなければよかったと後悔しながら過去を振り返ることがしばしばありますよね。霊的な観点でいうと、私たちは弟子であるとはどういうことか心から受け入れる必要があります、後悔とともに過去を振り返ることがあってはいけません。

過去を振り返り続けていると、私たちは神の国に入るに値しなくなるかもしれないとキリストは警告しておられます。「ロトの妻のことを思い出さない。自分の命を救おうとするものは、それを失い、それを失うものは、保つのである」（ルカ 17：32、33）。ロトの妻は天使とともに前に進もうとしませんでした。彼女の心はソドムに留まっていたのです。振り返った彼女は塩の柱となってしまいました（創世記 19：26）。

前に進むか振り返るかの優柔不断さについて、ヤコブはこのように書いています、「そんな人間は、二心の者であって、そのすべての行動に安定がない」（ヤコブ 1：8）。

同じように、私たちが心に世的な欲望を抱き、神様が私たちにとっての第一の優先順位になるのを妨げるようなものを手放したくないと思いながらキリストの元に來たとしたら、私たちは神の国にふさわしくありません。前に進み続けることに集中して、神様に私たちを導いていただかないといけません。後ろを振り返って家族、友人、世的な喜びなどに惹かれてはいけません。

優柔不断である結果、私たちは神様を信じられなくなり、そして天の王国に入るに値しなくなってしまうのです。私たちが「あなたに従います。でもまずは……」と言うとき、私たちは自分の人生や持ち物を賭けて神様に従うことを恐れているのです。その代わり、私たちは永遠の救いを与えてくれることのない持ち物、仕事、社会的地位、お金などの事物に信頼を置いてしまいます。

箴言 3：5 は「心をつくして主に信頼せよ、自分の知識にたよってはならない」と言っています。苦難や欠乏それ自体が救いに導くわけではありませんが、私たちがキリストを完全に信頼しているということを指し示します。

ヘブル 10：38 に似たようなことが書いてあります。「わが義人は、信仰によって生きる。もし信仰を捨てるなら、わたしのたましいはこれを喜ばない」。パウロは、信仰によって生きる時のみ私たちは弟子であることができ、信仰を放り投げてしまっては救いに与れないという危険に陥ってしまうと言っています。

偉大な説教者であったチャールズ・スポルジョンは、「神への信頼は救いへと導く。信頼しないのは神に救われていないことを意味する」と言っています。弟子であることの危険性は、振り返ったり、イエス様を見失ったり、イエス様を信頼することを忘れたり、そして自らの救いを失ってしまったという可能性を含んでいます。

今朝、真の弟子であるならば、それが私たちに何を要求するかについて見てきました。

- ・ 決断力をもって快くイエス様からの召しに応えないといけない—なぜなら、少しの遅延も許されないから
- ・ 従順に従わないといけない—たとえ苦難や犠牲が必要になったとしても
- ・ 完全に主を信頼し、迷うことなく信仰をもって応じないといけない
- ・ 主との関係を築くことを最優先にしないといけない—一日ごとの祈りやみ言葉の学びも含みます
- ・ 前を見据えないで過去を振り返るきっかけになりかねない世的な喜びを断ち切らないといけない

人生は不確かなものですが、1つだけ確かなものがあります。私たちがどれだけがんばって働いて獲得したとしても、世的なものはいずれなくなります。すべてが一時的なもので、永遠という視点から見るとなんの価値もありません。すべてが朝日の前の霧のように消え去ります。イエス様が私たちに与えて下さるものは対照的です。天国での永遠の命と新しく創造された地球です。この世の何事にも代えがたいほどの価値をお持ちの神様と、私たちは永遠に暮らすのです。

締めくくるにあたって、各々の生活を振り返り、厳しい質問を自分に問うてみましょう。

- ・ どのような快樂や持ち物を神様よりも優先していますか？
- ・ キリストとの関係よりも大事にしている人間関係がありますか？
- ・ 安全や満足のため、誰や何に頼っていますか？

私たちはイエス様を信頼する必要があります。なぜなら愛される弟子となるためにそれ以外の道はないからです。

世に伝えるべき永遠の真理と大いなる使命をもって私たちは祝福されてきました。そして「私に従ってきなさい」というイエスの召しは今日もなお私たち一人ひとりに当てはまるのです。福音を聞くことを待ち望んでいる何十億という人々がいます。あなたは精一杯の努力を惜しみませんか、自身の快樂をあきらめますか、すべてを犠牲にしますか、そして主につかえる弟子たちをつくり出しますか。

本当の弟子になりたいという献身に対する応答として聖霊の注ぎをお与えくださいと熱心に祈り求めるとき、神様があなたを祝福してくださいますように。

安息日午後のワークショップ

「私に従ってきなさい」と言われる神に信頼できますか？

〈プログラム〉

聖書朗読：詩篇 48：14

はじめのお祈り：

特別讃美歌（オプション）：

導入：「私に従ってきなさい」と言われる神に信頼できますか？

分ちあい

まとめと結論

終わりのお祈り：

空白の部分は各教会でご自由にアレンジしてください。

導入

いつもと変わらぬ一日が始まります。ダビデが緑の牧場と水辺とを探し求めて父親の羊を連れだしたように、何か重大なことが起ころうとしている兆候はどこにもありません。今日神様がその召しを明確にし、1人の若い羊飼いの少年に油を注がれるであろうと示すものはありません。しよせん彼はただの普通の少年です。エッサイの8人の息子の末っ子のダビデは羊を見ながらベツレヘム辺りの丘を歩き回っています。

その朝、預言者サムエルがベツレヘムに入ると、街の長老たちは「穏やかな事のためにこられたのですか？」と急いで聞きます。彼はかれらの不安がわかり、彼らの恐れを鎮め、連れてきた雌牛を指さして言います。「穏やかな事のためです。わたしは主に犠牲をささげるためにきました。身をきよめて、犠牲の場所にわたしと共にきてください」。そしてエッサイとその息子たちに加わるようにと勧めます。

サムエルは衣服のひだに隠すように、聖別する油を満たした角を吊り下げていました。それをそのままにして、イスラエルの王であるサウルの代わりに選ばれたのはエッサイの息子のうちの誰なのか主が見せて下さるのを待っています。エッサイの長子、エリアブが前に出ると、サムエルは感銘を受けます。その若者は背が高く、強く、そしてサムエルの頭の中ではイスラエ

ルの王の役割を果たすのに完璧に見えます。これが主の油そそがれる者にちがいないと、サムエルは思います。

しかし主は言われます、「顔かたちや身のたけを見てはならない。わたしはすでにその人を捨てた。わたしが見るところは人とは異なる。人は外の顔かたちを見、主は心を見る」。サムエル記上 16 : 7

1 人ずつ、エッサイの 7 人の息子たちが預言者の前にやって来ます。そして、1 人ひとり、主が選んだのは彼らではないと示します。サムエルは困惑してエッサイのほうを向き尋ねます。「あなたのむすこたちは皆ここにいますか」それからエッサイはダビデを思い出し、サムエルに促されすぐに彼を呼びにやります。ダビデが他の兄弟に加わった時、主はサムエルに言います。「立ってこれに油をそそげ。これがその人である」。そしてみんなの前でサムエルは油の角をとり、後にイスラエルの王となるこの若い羊飼いの少年に油を注ぎます。「この日からのち、主の霊は、はげしくダビデの上に臨んだ」（同 13 節）

油そそがれた日の翌日はいつもと変わらない日です。その翌日も同じです。またその翌日も。それに続く日々はいつもと変わらずと記されます。ダビデは、父親の羊を率いる代わりに、王座に身を置き、王冠をかぶり、彼の国民を統治するために宮殿に呼ばれるのはいつだろうかと思に思ったことでしょう。神の油注がれた者として生きることは、私たちがこうあるべきだと思っているようには見えないのです。結局のところ、私たちが何かをするように神様に召されたら、そして私たちと共にいるように聖霊を送ってくださったら、私たちは物事がうまくいき、スムーズにいくとしばしば期待します。ダビデに油が注がれたあと、彼に何が起きたか見てみましょう。

時はゆっくりと過ぎて行きます。彼は相変わらず父の羊の面倒を見ています。そしてある日エッサイがサウルの軍隊で戦っている兄たちの様子を見てくると彼を送り出します。ほどなくしてダビデは 2 つの軍を隔てている谷間に響く声で神を呪う敵国の巨人と対峙している自分に気づくのです。義憤に燃えた彼は、羊たちをライオンやクマから守るときにともにいて下さった神は巨人と対決するときにもともにいて下さる同じ神であることを王に保証するのでした。ダビデは私たちみんなが学ばなければならない教訓をすでに学んでいたことがお分かりになると思います。つまり「私に従ってきなさい」と言われる神は信頼に値するお方だということです。

ダビデはゴリアテを倒しますが、家に帰ると羊の世話をする元の生活に戻ります。ときおり堅琴を弾いて悩める王の不安な気持ちを和らげるようにと王宮に召喚されるのでした。しかしそんな生活も、ある日サウルが槍を手に取り彼を殺そうとしたときに終わりを告げました。ダビデは逃亡し、それからの数年間サウル王から身を隠すのでした。偶像を拝む異邦人に囲まれて洞穴で過ごし、絶望のあまりこう叫ぶこともありました。「主よ、なぜなのですか。あなたはどこにおられるのですか。あなたは預言者をつかわして私を王にすべく油を注がれました。なのに私は洞穴に身を隠してここにいるのです。主よ、あなたはどこにおられるのですか」と。

しかしあらゆる困難にもかかわらず、ダビデは彼を召されたお方は信頼できるお方だと信じることを選ぶのです。ダビデが羊たちを呼ぶと羊たちが彼に従ってくるのとまさに同じように、ダビデは自分の飼い主であるお方の声を聞き、そのお方が導かれるところならそれがどこであれ従って行くのです。彼の羊たちが彼を信頼したように、ダビデも羊飼いなる神を信頼するのです。

やがて羊飼いの少年はイスラエルの王となり、神は彼をご自身の心にかなう者と呼ばれます。王となってから重大な過ちを犯し、いくつもの罪を犯しましたが、ダビデは自分の羊飼いであられる神を愛し、神に従うのです。

ダビデが世を去ってから何百年もあとのこと、イエスはダビデの息子ソロモン王が立てた壮麗な神殿の柱廊を歩いていました。イエスは多くのやじ馬たちと、そして彼を滅ぼす口実を探しているさらに多くの者たちに取り囲まれていました（ヨハネ 10:22-39 参照）。彼らは言います、「いつまでわたしたちを不安のままにしておくのか。あなたがキリストであるなら、そうとはっきり言っていただきたい」（同 24 節）。

「イエスは彼らに答えられた、『わたしは話したのだが、あなたがたは信じようとしな。わたしの父の名によってしているすべてのわざが、わたしのことをあかししている。あなたがたが信じないのは、わたしの羊でないからである。わたしの羊はわたしの声に聞き従う。わたしは彼らを知っており、彼らはわたしについて来る。わたしは、彼らに永遠の命を与える。だから、彼らはいつまでも滅びることがなく、また、彼らをわたしの手から奪い去る者はない』」（同 25-28 節）。

それを聞いて、アブラハムの子孫であり、選ばれた神の民である者たちは自分たちのメシアであるお方を石打ちの刑にすべく石を取りあげるのです。しかしイエスは父なる神のみ手の中で守られ、父のみ旨に反して奪い去ることは誰にもできないのです。イエスは天父に信頼しておられます。イエスは毎日天父と交わるための時間を持っているので、父のみ旨が何であるかを知っておられるのです。イエスは父のみ声を聞き分けることがおできになるのです。

私たちはどうでしょうか。私たちはその声が分かるでしょうか。生活の雑音の中で父のみ声が聞こえてきますか。娯楽など気晴らしの中であって、行く手をさえぎる巨人たちの間を進むときに、人生の旅路の中で何度も過ごさねばならない暗闇の洞穴の中で、神様のささやきが聞こえてきますか。ダビデのように、私たちも永久に王宮にたどり着けないのではないかと絶望してしまうのでしょうか。

イエスやダビデのように、私たちも私たちの羊飼いであるお方の声を聞こうと耳を澄まさなければなりません。なぜならそれが「私に従ってきなさい」と言われる神に信頼することを学ぶ唯一の方法だからです。私たちは静かな祈りの場において神のみ声を聞きます。ホワイト姉妹はこう書いています。「ほかの声がみな沈黙して、静けさのうちに神の前に待つ時、魂の静寂は神のみ声を一層明らかにする」（『希望への光』 p858 「各時代の希望」 第 39 章）

分ちあい

1. 聴衆の規模に応じて5人から10人ぐらいのグループに分けます。
2. 各グループにリーダーを立ててもらい、以下の質問について相談し回答をまとめてもらいます。
 - a. あなたの人生でこれまでに直面した巨人や洞穴にはどんなものがありますか。
 - b. あらゆる状況でも神に信頼するのが難しいのはなぜですか。
 - c. これまでの人生経験が神に信頼するあなたの能力に影響を与えていると思いますか。もしそうならこの問題に前向きに取り組むための方法は何でしょうか。
 - d. 祈りにおいて私たちはどのように神に「聞く」のでしょうか。
 - e. 私たちが聞いているのが神の声なのかそうでないのか、どのようにして知ることができるのでしょうか。
 - f. 神の声を「聞く」ことにおいて聖書はどんな役割をはたしているのでしょうか。
 - g. 聖書はどの程度まであなたの霊的な歩みについて知らせてくれるのでしょうか。
 - h. 神とともに歩む中であなたがどんなレベルにいるかにかかわらず、神の声を理解する上でのあなたの信頼のレベルを向上させてくれるステップをいくつでも挙げてください。
3. 分かち合いに十分な時間をとったあとで、各グループのリーダーから回答を発表してもらいましょう。

まとめと結論

「私に従ってきなさい」と言われる神に信頼できますか？

あなたがどんな巨人と対峙していても、あなたがどれだけの期間洞穴に隠れなければならなかったとしても、あなたを召された神は信頼に値することが確かであると励ましたいと思います。神は次のように言われるとき、ご自身の言葉を語っておられるのです。

「恐れるな、わたしはあなたをあがなった。／わたしはあなたの名を呼んだ、／あなたはわたしのものだ。／あなたが水の中を過ぎるとき、／わたしはあなたと共にいる。／川の中を過ぎるとき、／水はあなたの上にあふれることがない。／あなたが火の中を行くとき、焼かれることもなく、／炎もあなたに燃えつくことがない。／わたしはあなたの神、主である、／イスラエルの聖者、あなたの救主である。……／あなたはわが目に尊（い）……。／恐れるな、わたしはあなたと共にいる」（イザヤ 43:1-5）

詩篇記者の言葉にある通り「これこそ神であり、世々かぎりなくわれらの神であって、とこしえにわれらを導かれるであろう」（詩篇 48:14）そうです。神が「私に従ってきなさい」と言われるとき、私たちは神に信頼することができるのです。

祈りに関する引用文

The Invitation: “Live your life in such a way that when your feet hit the floor in the morning Satan shudders and says . . . ‘Oh no . . . she’s awake!’”

招き：朝あなたの足が床に着いたとき、サタンが身震いして「まずい、あいつが目ざめてしまった」と言うような、そんな人生を生きなさい。

“Do not be anxious about anything, but in everything by prayer and petition, with thanksgiving, present your requests to God. And the peace of God, which transcends all understanding, will guard your hearts and your minds in Christ Jesus.” – Philippians 4:6-7 (NIV)

「何事も思い煩ってはならない。ただ、事ごとに、感謝をもって祈と願いとをささげ、あなたがたの求めるところを神に申し上げるがよい。そうすれば、人知ではとうてい測り知ることのできない神の平安が、あなたがたの心と思いとを、キリスト・イエスにあって守るであろう」ピリピ人への手紙 4:6-7

“Then Jesus told His disciples a parable to show them that they should always pray and not give up.” [The Parable of the Persistent Widow] – Luke 18:1 (NIV)

「また、イエスは失望せずに常に祈るべきことを、人々に譬で教えられた」ルカによる福音書 18:1

“Therefore He [Jesus] is able to save completely those who come to God through Him, because He always lives to intercede for them.” – Hebrews 7:25 (NIV)

「そこでまた、彼は、いつも生きていて彼らのためにとりなしておられるので、彼によって神に来る人々を、いつも救うことができるのである」ヘブル人への手紙 7:25

“There is nothing too great for God’s power and nothing too small for His love.” – Corrie ten Boom

「神の力が及ばない大きすぎるものも、神の愛が届かない小さすぎるものもない」コーリー・テン・ブーム

“The greatest tragedy of life is not unanswered prayer, but unoffered prayer.” – F. B. Meyer

「人生の最大の悲劇は答えられなかった祈りではなく、捧げられなかった祈りである」F.B.マイヤー

“When you neglect to offer prayer for the sick [physically, emotionally, spiritually], you deprive them of great blessings; for angels of God are waiting to minister to these souls in response to your petitions.” – Medical Ministry, p. 195

「（肉体的に、精神的に、霊的に）病んでいる人のために祈ることを怠るとき、あなたは彼らから大きな祝福を奪っている。なぜなら神のみ使いたちはあなたの嘆願に応答してこれらの魂に使えるよう待機しているからである」 Medical Ministry, p. 195（英文）

“Ministering angels are waiting about the throne to instantly obey the mandate of Jesus Christ to answer every prayer offered in earnest, living faith.” – 2 Selected Messages, p. 377

「仕える天使は熱心な生きた信仰によって捧げられたすべての祈りに答えよとのイエス・キリストの命令に直ちに従うべく御座のそばで待機している」 “2 Selected Messages” p. 377（英文）

“It is part of God’s plan to grant us, in answer to the prayer of faith, that which He would not bestow did we not thus ask.” – Great Controversy, p. 525

「われわれがこのようにして求めなければ与えられないものが、信仰の祈りにこたえて、われわれにさづけられることが、神のご計画の一部である」『希望への光』p. 1853 各時代の争闘第 32 章

As you pray God’s blessing on your children, release your plans and trust God to accomplish His.” – Praying the Scriptures for Your Adult Children (Trusting God with the Ones You Love), by Jodie Berndt, p. 33

「子どもたちのために神様の祝福を祈るように、あなたの計画を解放し、神がご自身の計画を成し遂げられるのだと信頼しなさい」『あなたのアダルトチルドレンのための聖書の祈り（あなたの愛する者と共に神を信頼する）』ジョディー・バーント著

“When all other courses of action have been eliminated, when we stand at the edge of the abyss, when we approach God with empty hands and an aching heart then we draw close to the true heart of prayer.” – Jerry Sittser, p. 32

「他の全ての請求権が取り除かれ、奈落の淵に立ち、空っぽの手と傷む心で神様の元に行く時、祈りの真の心に近づきます」ジェリー・シットサー

“So my dear brothers and sisters, be strong and steady and always enthusiastic about the Lord’s work, for you know nothing you do for the Lord is ever useless.” – 1 Corinthians 15:58 (NLT)

「だから、愛する兄弟たちよ。強く立って動かされず、いつも全力を注いで主のわざに励みなさい。主にあっては、あなたがたの労苦がむだになることはない、あなたがたは知っているからである」コリント人への第一の手紙 15:58

Shared with permission by Cherie Smith
Visitation and Prayer Pastor
Collegedale Seventh-day Adventist Church
Collegedale, Tennessee, USA

Compiled for distribution at
Chattanooga CONNECTIONS Women's Convention
Tennessee, USA
September 7, 2019